

教育目標

夢中になって遊び、心豊かにたくましく生きる力の基礎を培う

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年11月5日	みつば幼稚園学校運営協議会
最終評価		

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子どもが夢中になって遊び込むという姿を的確にとらえ幼児理解を深める。
- ・金曜日に全クラスがその週の保育の振り返りと次週の保育について語り合い、共通理解をはかることで、教員・子ども双方の育ち合いを目指す。
- ・戸外での遊びや体を動かす遊びに意欲的になれるような環境構成を適宜見直したり、教師が意図的に投げかけたりすると共に、安全な遊具の使い方を年齢に応じて指導する。
- ・毎月の保健指導をはじめ、健康・衛生面について毎週ポイントを絞り指導する時間を設ける
- ・安全な道路の歩き方を園外保育の機会や交通教室を開き指導する。
- ・一人一人の心の動きに沿って幼児理解を深め、安心感から生まれる信頼関係を築く。
- ・互いに理解し合う体験や、一緒に活動する楽しさを味わうことができるよう、自己主張のぶつかり合う場面などで、子どもの心の動きを捉え、丁寧に関わるようにする。
- ・他学年の子どもに親しみをもてるよう、教師が遊びの中で子どもの名前を積極的に呼ぶことでつなぐ援助をする。
- ・子どもたちが心や体を十分に動かし、夢中になって遊び込めるよう、適宜園内の環境を見直し再構成する。
- ・季節に応じた花や野菜などの栽培活動を通して、植物の生長に気付いたり収穫の喜びを感じたりする

等, 直接的な体験を大切にする。

- ・小動物や虫などに親しみ, 温もりを感じられるよう, 身近な生き物に触れ合う場をつくる。
- ・子どもが安心して自分の思いを素直に話することができるように, 教師との信頼関係を築くと共に, 教師が子ども同士をつなぐ援助をする。
- ・教職員は子どもや保護者, 来園者に笑顔で挨拶をし, 心地よい挨拶のモデルになる。
- ・保育での読み聞かせや, 絵本貸し出し, 「親子で絵本!」を活用し, 子どもが, 親や教師と触れ合いながら絵本や物語に親しみ, 想像する楽しさを味わったり, 外国語を含め様々な言語を見聞きたりできるようにする。
- ・一人一人の興味関心を理解し, 子どもが心を動かし思いを表現したくなったりするような, 豊かな環境づくりや教材の工夫する。
- ・子どものありのままの素直な表現を受け入れ, 共感したり認めたりすることで表現する楽しさや伝わる喜びを味わえるようにする。
- ・互いに思いを主張する機会を大切に, 自分と相手の思いの違いに気付いたり, 葛藤したりする姿を受け止める。
- ・共有のものを使ったり, 簡単なルールのある遊びをしたりする機会をつくり, 生活や遊びの中での必要なきまりや思いやりに気付けるようにする。
- ・個々の子どもの課題を明確にし, 支援を充実させるため定期的な園内研修を行い, 全教職員で共通理解をする。
- ・一人一人の良さや, 嬉しい出来事をその場で本人や周りの子どもに伝えたり, クラス全員で共有したりして, 互いを認め合えるクラスづくりをする。

(取組結果を検証する) 各種指標

○金曜日の振り返り時間での園環境の見直し内容や, 幼児理解の内容

・夢中になって遊びたくなる(体を動かす・飼育栽培活動に興味をもつ・ごっこ遊びや表現遊びなど)ような環境の再構成と援助の振り返り

○週案の振り返りや記録, エピソード研修をもとに, 子どもとの信頼関係や子どもの様々な感情体験などの幼児理解, 学級経営の振り返り

○週案をもとにした, 保健指導や日々の感染対策への指導や安全指導の振り返り

○「親子で絵本ノート」の活用状況の把握と学級での読み聞かせの冊数

○保護者アンケート

- ・子どもは幼稚園に登園することを喜んでいる
- ・子どもは幼稚園で夢中になって遊ぶ体験をしている
- ・子どもが幼稚園で夢中になって遊ぶことは子どもの心や体の育ちに必要だ
- ・子どもは幼稚園で体を動かして遊ぶことを体験し, 楽しんでいる
- ・子どもは幼稚園で身近な自然にかかわり, 季節を感じる体験をしている
- ・子どもは幼稚園で様々な感情体験(笑う・喜ぶ・怒る・困る・悲しむなど)を豊かにしている
- ・子どもは生活や遊びの中で, 必要なルールやきまりがわかり, 守ろうとしている。
- ・幼稚園教職員は子どもや保護者に笑顔で挨拶をしている
- ・子どもは挨拶(おはよう・さようなら・ありがとう・ごめんなさい)をしている
- ・幼稚園教職員は子どもの思いを受け止め信頼関係を築こうとしている
- ・子どもは帰宅後手洗いを進んで行っている

中間評価

各種指標結果

○毎週末, 週案をもとに各クラスの実態や環境構成, 子どもの「夢中」について観点を絞って協議を行った。学級の実態把握につながるとともに, 個々の幼児理解を深めることができ, 次週に向け環境構成が

実態に即したものになっている。学年を超えて話し合った。

○学年を超えて協議をすることで個々の育ちを多角的に検討し幼児理解を深められ、信頼関係や学級経営を常に見直すことにつながっている。また、異年齢間でつながりを持った保育を計画・実践できた。

○週案に計画している保健衛生・安全面への活動を振り返り、実施して明らかになったことを加筆し、衛生面や安全意識の向上につなげている。交通指導モデル園として「合図横断」に取り組み5歳児対象にスモールステップでの指導を行った。

○「親子で絵本ノート」を毎月担任が確認する中で、コメントを記入するなど家庭の状況に合わせた啓発を行っている。絵本の読み聞かせ活動は各学級平均週3～4冊。早朝預かり保育でも読み聞かせ実施。

○保護者アンケート(A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:まったく思わない 無:無回答)

・登園を喜ぶ(A73%B22%C5%)

・夢中は心や体の育ちに必要(A95%B5%) ・夢中になって遊んでいる(A81%B18%C1%)

・体を動かして遊んでいる(A92%B7%C1%) ・自然にかかわり季節を感じる(A89%B11%)

・様々な感情体験(A80%B20%) ・ルールやきまりを守る(A65%B35%)

・挨拶を交わす大切さ(A95%B5%) ・挨拶をしようとしている(A46%B29%C4%無1%)

・教職員の挨拶(A87%B12%C1%)・子どもの思いを受け止め信頼関係を築く(A91%B9%)

・帰宅後自ら手洗い(A74%B25%C1%)

自己
評価

分析（成果と課題）

・毎週末、週案振り返りと「夢中」を観点にした協議により幼児理解を深め実態に即した環境構成の工夫を行い、常に保育改善を行い、「夢中」になる姿が多く見られた。「の夢中」アンケート項目もA評価8割、体を動かす項目もA評価9割、自然の項目もA評価9割近くであり、保護者も子どもの活動が活発に豊かになってきていると受け止めている。

・登園を喜ぶ項目に C 評価がみられる。まだ園生活に慣れていない年少児もあり安心して通える楽しい幼稚園と感じられるよう取組み、子どもの成長過程を保護者とともに見守りたい。

・子どもの様々な感情体験や葛藤体験を教員が寄り添い幼児理解をしながら一人一人の心の育ちを読み取っている。その項目はA評価が8割と高かった。一方で、ルールのある遊びや生活上のきまりなどのA評価は6割である。幼児は何度も体験を繰り返し道徳的な思考や判断基準が育まれる発達段階であるので、今後も丁寧に取り組みたい。

・様々な角度から幼児理解を深め個々の育ちをとらえるとともに信頼関係を築く学級経営を積み重ねている。(A評価91%)また、他学年の姿を話し学び合うことは教員の異年齢交流の意識向上となり、保育に一層反映され、子どもたちの異年齢交流が活発になってきている。感染状況に対応しながら活動を広げていきたい。

・社会の状況に合わせた感染症対策を行い保護者や園児への啓発指導を積み重ねてきた。臨時休園時の保護者の理解・協力を感謝しつつ、日ごろの家庭との連携がいかに大切かを学んだ。帰宅後の手洗いは今後も指導を続け引き続き家庭とともに取り組んでいきたい。

・合図横断にモデル園として取組んだことで5歳児には道路横断時の安全意識の向上がみられる。園外保育など実地での指導を重ねつつ、3・4歳児への指導は今後家庭への啓発とともに進める。

・挨拶は大事だと園も家庭も思い、笑顔で挨拶をすることを心掛けている。子どもは挨拶の声がまだ十分にでない場面もある。(A評価46%)丁寧に指導を続けたい。

・園での読み聞かせ、「親子で絵本ノート」活用、絵本貸出など絵本やお話に触れる機会を多く持っている。園児が興味を寄せている絵本や話題を保護者と共有しさらに家庭とのつながりをはかっている。外国語絵本の蔵書も多いので活用したい。

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>前期の取組継続に加え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より子どもが夢中になるための教材について週末打合せで情報交換する ・挨拶をする気持ちよさや大切さを様々な機会を通じて伝える
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>保育での教材活用の様子を振り返る</p> <p>挨拶をすることの啓発や指導を通して、登園時や降園時の子どもの挨拶の様子</p>
	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>子どもに寄り添いながら、安心感をもって園生活を送れるよう園が取り組んでいる。コロナ対応も大変だと思うが、その場に応じた対応がとれている。子どもたちが生き生きと活動している幼稚園だと、理事として発信をしていきたい。</p>

最終評価

<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(2) 幼小連携・接続に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが小学校生活を具体的にイメージでき、期待が膨らむよう、交流または ICT 活用により小学校生活が感じられるようにする。 ・ICT を活用した連携の在り方を探り、コロナ禍であっても実施可能な年間計画を作成する。 ・個々の箸やパスなど用具の持ち方や筆圧をとらえ、生活の中で個に応じた指導をする
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ○年間計画の作成と進捗状況及び ICT を活用した幼小連携の振り返り (小学校生活が感じられたか 小学校生活に期待を膨らませているかなど) ○小学校との連携から見直した接続期カリキュラムに基づいた取組 ○昼食時や描画活動での用具の持ち方や筆圧など個々の実態の把握と指導の振り返り ○保護者アンケート ・地域の小学校との交流や連携は子どもの心の育ちにつながる ・子どもは、箸やペン・パスなどを正しく持って使っている

中間評価

各種指標結果	
<p>○感染状況により1学期は小学校と相談するにとどまり計画が実施に移せず、見直しをした。2学期になり、ようやく動画など ICT を活用し「小学校ってどんなところ？」という子どもの疑問を校長先生に聞き、動画で返事をもらい視聴した。</p> <p>○箸やスプーン、パスやペンの持ち方や筆圧など個々の実態をとらえた。食べること、表現活動を楽しむことを大事にしながら、個人に応じてゆっくりと指導をすすめている。絵画造形活動では素材を楽しみながらしっかりと画材を握り、操作し、腕も使ってのびのびと線にかくことを十分取り組んだ。</p> <p>○保護者アンケート(A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:まったく思わない 無:無回答)</p> <p>・小学校との連携は心の育ちにつながる(A77%B20%C1%無2%)</p> <p>・箸やペン・パスなどを正しく持つ(A22%B52%C26%)</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校のことを話し合う中で、子どもが小学校をどうとらえているか園生活と比較しながら考えていることが分かった。校長先生のインタビューを視聴し、「園と一緒に」と安心する姿もあった。 ・後期に向け計画を修正しながら ICT を活用し、具体的に小学校生活がわかり、期待が膨らむような双方向での交流活動を展開する。 ・箸や鉛筆の持ち方は個人差が大きい握る向きなど個人に応じてかかわっている。指先だけでなく、腕全体で線にかくことから少しずつ細かな動きへと丁寧にみとっていく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学先は複数校ある。他の小学校とも連絡をとり「小学校がわかる、知る」観点から、ICT を活用し、双方向での交流を行う。 ・育ちを次へつなぐことを意識した週案の振返りを行う
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携・交流の経過や子どもの姿から幼児理解を深める。 ・接続期を意識し「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の観点からの週案の振返りを行う。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生インタビューなど、年長児の小学校への不安を軽減できよかった。今後も小学校へ連携をどんどん呼掛け、活動を展開し、有意義な連携となるよう努めてほしい。 ・入学後、給食に困る子どもがいると聞いている。（直接交流が行えるようになった時は）給食に関する交流や連携を願う。運営協議会としても小学校に伝えていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・異年齢が関わる場であることを意識し、手洗いの励行や遊びの空間を広くするなどの感染防止対策を行う。
- ・健康状態や早朝登園時の様子、保育中の様子や子どもの関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。
- ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行うとともに、読み聞かせなどを取り入れ、心地よく過ごせる活動を展開する。
- ・季節や教育時間の遊びを取り入れ子どもの思いのつながりを意識する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 週案をもとにした活動内容と、感染症対策の振り返り
- 担当者と担任との連絡・連携の振り返り
- 保護者アンケート
- ・なかよしタイムは子どもにとって他のクラスや学年の子どもとかかわる機会になっている
- ・子どもはなかよしタイムで楽しく過ごしたり安心して過ごしたりしていると思う
- ・なかよしタイム(早朝預かり保育を含む)は保護者にとって子育ての支援になっている

中間評価

各種指標結果

- 週案をもとに保健衛生・感染症対策や教育時間との関連など活動を振り返り、入室時の手洗いや消毒、密を避けるため机に座る人数を4人までにするなど感染症対策を保育に反映した
- 体調面を中心に子どもの様子など適宜担当者と担任、園と家庭が連絡を取り合い、毎日を健康に過ごせるよう取り組んだ。また、担当と担任との連携ではいろいろな場面での姿から幼児理解を深めた。
- 保護者アンケート(A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:まったく思わない 無:無回答)
- ・なかよしタイムは他学年の子どもとかかわる機会(A68%B22%C2%無7%)
- ・なかよしタイムで楽しく安心して過ごしている(A57%B25%C5%D1%無12%)
- ・なかよしタイム子育ての支援(A81%B10%C1%無8%)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・異年齢交流により遊びの他、片付けや手洗いなど生活習慣の面でも年長児がモデルとなり3歳児に伝える姿がある。年長児も伝えることで生活の仕方や感染症対策を再確認する機会となった。
- ・換気をよくし、手洗いや消毒、机に座る人数への配慮など感染症対策を行った。今後も継続する。
- ・なかよしタイムで安心して楽しんでいる子どもも多いが、不安感をもっている子どももいる。一人一人に寄り添いながら少しでも楽しい遊びを見つけ、安心できる居場所づくりを工夫していく。
- ・アンケートに「無」回答が他項目より多いが、預かり保育(早朝を含む)を全く利用していない家庭もあり、回答しにくかったものと思われる。

分析を踏まえた取組の改善

感染状況をふまえながら、読み聞かせボランティアなどの活動を取り入れる

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

読み聞かせボランティアなどの活動状況

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育・18時までの預かり保育の利用者が増えていることは喜ばしい。16時までの預かり保育のころに比べ、家庭の支援が充実している。依然、幼稚園は預かる時間が短いとされているので、広報していけばよい。 ・学区内に新たにできた学生寮の学生がボランティア活動を願っている。連絡をとることができるのでなかよしタイムでの読み聞かせなどできるだろう。園とつないでいく。
---------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

(4) 子育ての支援に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う ・感染症対策をした上で、ほっこり子育てひろばなど、保護者同士が、子育てのことを気軽に話せる場をつくる。 ・未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談を行う。 ・HP 掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。 ・2歳児が、徐々に園生活を体験する取組を行う。(素材遊び・栽培活動・トイレ等生活体験)
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりや HP での教育活動の発信 ○ほっこり子育てひろばなどの開催回数と内容の振り返り ○教育相談の内容の振り返りと HP での発信回数 ○保護者アンケート ・幼稚園教職員に子どものことや子育ての悩みなどを話したり相談したりしやすい ・幼稚園は教育活動(子どもの姿など)を降園時に家庭に伝えたり園だよりやHPで発信したりしている。 ・降園時に幼稚園の様子を聞いたり連絡ボードを見たりすることは、家庭と園との連携にとって大切だ ・幼稚園の教育相談は地域の子育て支援になっている

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ○降園時、保護者に保育内容を伝えているが、預かり保育などで登園・降園時間が異なるため、ホワイトボードを活用しての伝達を毎日継続した。園だよりのほか、メール配信で情報の補足を行った。各学年週に1度は HP で活動内容を発信した。 ○前期は感染状況により在園時保護者のほっこり子育てひろばは実施を見送った。教育相談で未就園
--

<p>児保護者のテーマを定めた座談会は1回設けた。参加者は活発に食事について話し合った。</p> <p>○教育相談の参加者数や内容の記録をもとに、こういった遊びを好んでいたのか振り返り、次回の遊びの環境構成にいかした。HPに毎月の予定を中心に9月末までに13回発信した</p> <p>○保護者アンケート(A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:まったく思わない 無:無回答)</p> <p>・教職員に相談しやすい(A74%B26%) ・教育活動の発信(A86%B14%)</p> <p>・降園時の連絡は家庭と園との連携にとって大切(A91%B9%)</p> <p>・教育相談は地域の子育て支援(A77%B22%無1%)</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>○感染状況により参観懇談が行えない時期もあったが、毎日の保育について保護者に伝え子どもの育ちを共有できた。(降園時の連絡の重要度A評価91%教育活動の発信A評価86%)教職員に相談しやすい項目はAB評価100%だが、A評価は7割である。後期はほっこり子育てひろばも状況をみて開催するなど、子育ての悩みに寄り添いながらさらに家庭との連携をいっそう深め、信頼関係を構築していきたい。</p> <p>○未就園児の興味関心をとらえ環境構成を考えた。繰り返し楽しむ遊びがいくつかできてきた。今後も参加児の発達や興味に応じて遊びを提供していきたい。</p> <p>○緊急事態宣言期間中、他の子育て支援施設が閉鎖されていたこともあり、当園教育相談が「開設されていてよかった」との声が聞かれた。今後も感染症対策をしながら子育て家庭がほっとできる場を提供していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○前期にできなかった懇談会やほっこり子育てひろばを状況をみて開催する</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○懇談会やほっこり子育てひろばなどの開催回数とその内容</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・毎日親が送り迎えをする幼稚園だからこそ、信頼関係が築け、子育ての支援、家庭との連携ができている。保護者も園に感謝している。良好な関係を今後も維持してほしい。</p>

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する高齢者施設のことを知り、つながりを感じられるような交流を、ICT の活用や手紙、栽培活動を通して進める。 ・中学校との連携や ICT を活用した交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者施設との交流の回数と、活動の振り返り ○上京中学校との交流や連携の回数と、活動の振り返り ○地域行事への参加の様子の振り返り ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは隣接の高齢者施設(特養)のことを知っていたり関心を持っていたりする ・子どもは上京中学校との交流や、地域の行事を知っていたり、関心をもっていたりする ・高齢者施設や地域(中学校との交流を含む)との関わりは子どもの心の育ちにつながっている

中間評価

自己評価	<div data-bbox="167 748 339 781">各種指標結果</div> <p>○感染状況が依然思わしくなく、高齢者施設との直接交流はできない中、年長児は園で育てた花のアレンジメントや手紙などを渡した。また、窓越しに挨拶をする、手を振るなどの小さな交流を続けた。施設から運動会へのメッセージが届き、園庭での元気な子どもの声や姿を受け止めていただいていることを子どもたちも感じ、体操を踊っている動画DVDをメッセージとともに渡した。</p> <p>○上京中学校と連絡をとり、後期に手紙や製作物など双方向での交流を行う計画を立てた。</p> <p>○地域行事が中止となったため、参加できなかった。子どもが地域を知る機会として近隣の公園に散歩に出かけたり、園周辺の清掃活動(ゴミゼロ活動)を行ったりした。</p> <p>○保護者アンケート(A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:まったく思わない 無:無回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設(特養)への関心(A18%B31%C43%D3%無5%) ・上京中学校や地域の行事への関心(A15%B25%C47%D6%) ・高齢者施設や地域との関わりによる心の育ち(A74%B21%C1%無4%)
	<div data-bbox="167 1330 480 1364">分析 (成果と課題)</div> <p>○高齢者施設と手紙や贈物など双方向でのやり取りの経験を重ねると“お隣りさん”への意識が高まり、園で収穫があると「プレゼントしたい」と子どもから声が上がることになった。ただ、年長児中心の活動であったこともあり、アンケートでも関心の項目はAB評価併せても 5 割に届いていない。後期はこの経験を他学年にも広げていく。</p> <p>○上京中学校や地域との直接交流もできなかったため、子どもの地域とのかかわりへの意識や関心は低い。地域を知る機会として今後も公園への散歩など行っていきたい。後期は中学校との交流を通して子どもの心が動くよう工夫していきたい。</p>
	<div data-bbox="167 1715 564 1749">分析を踏まえた取組の改善</div> <p>○高齢者施設や上京中学校との手紙や動画、製作物の交流をICTを活用するなど工夫して行う。</p> <p>○年中・年少児が高齢者施設に関心を持てる取組を行う ○近隣の公園などへの散歩</p>
	<div data-bbox="167 1865 903 1899">(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <p>○高齢者施設や上京中との交流や、散歩など地域を知る活動回数と内容の振り返り</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設との交流はみつばの特色でもある。様々な工夫をしての交流は今後も続けてほしい。 ・感染状況次第だが例年1月の地域女性会とのお茶会が実施できるか、感染症対策や中止の場合をどうするかなど連絡調整を行う。
---------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ○時間を意識した業務の遂行を行う ○各学年, 各職種の業務を意識し, 互いに連携をはかる
<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ○会議や研修の開始終了時刻の明示 ○職員朝礼の10分間, 教員週末打合せで情報共有し, 会議時間の短縮と業務改善を行う
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ○会議や研修が予定通り進行できているか ○教員週末の打合せにより次週以降の必要な環境(購入物品)や役割などの情報共有とその状況 ○勤務時間が異なる教職員との情報共有の為に「職朝ノート」の活用状況

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ○会議は概ね時間通りに進行できているが, 保育内容の研修では話し込んでしまう傾向がある。 ○教員週末打合せで, 環境整備に必要な物や段取りの情報を共有し準備漏れや二度手間が減少した。 ○職員朝礼の情報を「職朝ノート」に記載, 出勤時間が異なる勤務者は出勤後すぐにノートを見る習慣ができ情報共有がスムーズになり, 伝達漏れが少なくなった。 	
自己評価	<div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ○会議内容を事前に担当が整理する, 事務的内容は要点を押さえるなど進行の工夫がみられ, わかりやすく伝える力がついてきている。一方, 保育内容については教員の思いや悩みもあるため, 時間がかかる。定められた時間で話す工夫をする余地がある。 ○教員週末打合せで翌週や翌月の見通しを共有することで必要物品の調達がまとめやすくなった。

	他の職種の職員に、何を誰が伝えるかが不明瞭な部分もあるので、伝達時方法を改善する。 ○職員朝礼や週末打合せでこまめに情報共有することで職員会議は1時間以内で終了している
	分析を踏まえた取組の改善 (前期の取り組みを引き続き行いながら) ○要点を定められた時間内に伝達し、会議や研修の進行を円滑に行う
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○会議や研修の進行状況(予定時間内におさめられているか)
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な保育の改善を行う中で、業務見直しは大変だが、教職員の健康が園づくりの基本なので、引き続き取組をすすめてほしい。 ・図書ナビシステムの維持メンテナンス作業が必要な時には絵本ボランティアがバーコード読みなど行うので今後連絡調整していきたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策